御遷座百五十年「式年大祭」の斎行に向けて

令和七年、射水神社は高岡城本丸跡に御遷座されて百五十年の節目を迎えます。これまでも十年毎の式年大祭で、厳粛かつ盛大に祭典を斎行し、神代以来の地に鎮座される元宮・二上射水神社並びに摂末社として二上山に鎮まる神々との御神縁を繋ぐ御神幸をはじめ、稚児社参・奉納舞台等の数々の神賑行事、また記念事業として社頭整備を執り行って参りました。

先の百四十年祭からの十年、昨今は御朱印ブームもあり、若い世代の参拝も目立つようになる中、射水神社では更に一人でも多くの人にお参りいただけるよう四季折々の祭儀や教化企画を新たに立案、またSNSの広報媒体も最大限に活用することで、全国から参拝者が訪れるようになりました。

そして、平成二十七年に鎮座地である高岡古城公園は国史跡「高岡城跡」として指定され、さらには令和御改元により、あらためて『万葉集』が注目されるなど、お膝元である我が街・高岡も歴史資産を活かした新たな文化や魅力の創造のために力強く歩みを進めています。

旧社地である二上山麓に鎮座される二上射水神社へ神輿が渡御する「御神幸」が初めて行われたのは、高岡大火の二年後、明治三十五年十月のことです。

類焼した社殿の再建を見事に果たした当時の保科保宮司が小倉久富山県知事に宛てた文書には「本社と氏子との間、自ずから疎隔の姿に相成り、遺憾に堪えず」とあり、続けて「旧社地へ神幸相成り候わば、氏子も歓迎し奉り、大いに神慮に叶い、永く神人一和の基を啓き」と見え、越中総鎮守として広く富山県民に尊崇される御祭神「二上神」と地域の人々が御神幸によって心通わせることが、さらなる御神威の発揚となり、地域の安寧と国家の繁栄を祈る大切な祭事であると記されています。

このたびの式年大祭斎行にあたり、本殿以下諸殿舎の銅板葺き屋根廻りについては、永い年月に亘って直射日光と雨雪に晒されて、損傷や経年劣化が進んでおり、半世紀近く大規模な修繕が行われていないことからも速やかな修復が急務となっています。

御祭神・二上神がお鎮まりになられる社殿が輝きを取り戻すことで、御神威の更新を仰ぎ、より一層の御神徳をいただく意義深い大祭と致します。

来たる御遷座百五十年祭は、本社と元宮・二上射水神社が今一度、悠久の歴史を共有し、より緊密な連携を深めつつ、『万葉集』に詠まれる「貴き皇神」の鎮まられた神体山として両社詣でを推進する等、御神徳のさらなる発揚と地域の発展に努めるための好機として捉え、また向後の射水神社が進み行くべき方向性を定める契機ともなればと考えます。

なお、御神幸の儀は、新調した「御鳳輦」に御霊代をお遷し申し上げ、両社和衷協同、「神人一和」の心にて執り行い、未来の二百年祭、三百年祭をも見据えて厳粛且つ盛大に斎行すべく、準備を進めております。

そして、御神威のもと、「歴史と伝統の都市・高岡」の礎を築かれた越中国司で万葉歌人の大伴家持卿、また、加賀藩初代藩主高岡城主前田利長公に親しみと敬愛を持ち、さらには高岡の町の発展に尽くされた多くの先人たちに思いを馳せ、〝高岡の活性と富山県下一円の飛翔・飛躍への一助〟ともなるべく、感謝の祈りを捧げる式年大祭と致します。

越中総鎮守一宮 射水神社 宮司 炭谷 淳
射水神社式年大祭奉賛会 会長 菅野克志